

| 15 日(土) | 福祉用具講習会 | | | |
|-----------------|---|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| グループ名 | グループ A (8 名) | グループ B (8 名) | グループ C (8 名) | グループ D (8 名) |
| 13:00～ 13:30 | 受付開始 (受付にて質問用紙を回収します) | | | |
| 13:30～ 13:45 | 講習会開始 | | | |
| 13:45～ 14:15 | 1-1 ベッド移乗 (要介助) | 1-2 ベッド移乗 (全介助) | 2-1 トイレ移乗 | 2-2 浴槽移乗 |
| 14:15～ 14:45 | 1-2 ベッド移乗 (全介助) | 1-1 ベッド移乗 (要介助) | 2-2 浴槽移乗 | 2-1 トイレ移乗 |
| 休憩 5 分 | | | | |
| 14:50～ 15:20 | 2-1 トイレ移乗 | 2-2 浴槽移乗 | 1-1 ベッド移乗 (要介助) | 1-2 ベッド移乗 (全介助) |
| 15:20～ 15:50 | 2-2 浴槽移乗 | 2-1 トイレ移乗 | 1-2 ベッド移乗 (全介助) | 1-1 ベッド移乗 (要介助) |
| 移動・集合 5 分 | | | | |
| 15:55～16:00 | まとめ | | | |
| 16:00～ | 質疑応答・回答 ※ 実技講習会の後に質疑のお時間を設けております。ご了承下さい。 お時間の許す方はご参加下さい。 この機会に、多くの福祉用具をぜひご体験下さい。 | | | |

| 16 日(日) | 製品展示 |
|---------|------|
|---------|------|

| | | | | | | | | | |
|---------|---------|---------------------|-----------------------------|-----------------------------|------------------|---|-------------------------------|----------------------------------|----------------|
| 実技 ① | 1- 1 | できる つかまればで きる | できる つかまればで きる できない | できる つかまればで きる できない | ベッド 移乗 要介助 | 北原リハビリテーション病院 北原国際病院 永生病院 | ○清水 優子 永井 純/一原 克 多良 麻友美 | 株式会社 アイム | ◎五十嵐 敦 |
| | 1- 2 | できない | できない | できない | ベッド 移乗 全介助 | 相武病院 東京天使病院 | ○ 小池 淳 佐々木 良 | フランスベッド 株式会社 南多摩営業所 | ◎坂本 仁志 |
| 実技 ② | 2- 1 | できる つかまればで きる | できる つかまればで きる できない | できる つかまればで きる できない | トイレ 移乗 | 天翁会 新天本病院 いきがいデイサービスセンタ 一さくら 天翁会 あい訪問看護ステーション | ○ 鈴木 勇気 田上 幸子 遠藤 晴子 | パナソニック エイジフリー 介護チェーン日 野 | ◎塩谷 和宏 |
| | 2- 2 | できる つかまればで きる | できる つかまればで きる できない | できる つかまればで きる できない | 浴槽 移乗 | 康明会ホームケアクリニック 永生会地域リハ支援室 | ○ 小林 健一 石濱 裕規 | アビリティーズ・ ケアネット 八王子営業 所 | 小出 基子 大内 隆行 |

1-1 ベッド移乗（要介助）

【対象者像】

施設利用中。筋力低下、廃用症候群による立位移乗が困難になりつつある要介護高齢者（座位保持はつかまれば可能、立位は困難になりつつある）をベッドからモジュラー型車いすへ移乗する。

福祉用具：介助バー、タッチあっぷ、縦手すり、トランスファーボード・シート等

【目標】

今後は退院・在宅の可能性もあり、移乗介助負担増を予防する。本人の能力を引き出し、移乗の自立を目標としたい。

【実技内容】

1. 状況設定と条件の確認
2. 環境準備（車椅子や靴、道具など移乗するための準備）
3. 座位保持（座位の安定確認 介助者・非介助者・手すりの位置関係確認）
4. 立ち上がり（介助下、福祉用具使用下など、様々な方法での介助）
5. トランスファー（上記同様）
6. 着座

【ポイント・留意点】

- 福祉用具の使用方法や安全上の配慮
- 電動ベッドからモジュラー型車いすへの介助バー、据え置き型手すりを併用した移乗と自立支援／介助のポイント
- 片麻痺の移乗、スライディング・ボードの活用、動作介助技術の紹介デモ・質疑で行う

1-2 ベッド移乗（全介助）

【対象者像】

施設利用中の全介助レベルの高齢者。

【目標】

退院・在宅の可能性もあり、移乗介助負担軽減を図る方法を家族に提案したい。

【実技内容】

1. リフト使用のデモ（ベッド⇒車いす、車いす⇒ベッド）
2. 実技（ベッド⇒車いす、車いす⇒ベッド）
リフト未経験者から優先的に実施。ほか受講者の実技中に注意点等について説明、質疑応答を行います。
 - スリング装着からリフトでのティルト・リクライニング車いすへの移乗
 - スライディングシート（ビニル袋）での移乗、水平移乗に適したフルフラットタイプのティルト・リク車いす・ベッドの紹介と共にデモ

【ポイント・留意点】

実技のポイント

- スリング装着の仕方
- リフトへの掛け間違いを防ぐために
- ギャッチアップと適切なベッド高の調節
- 吊り上げる際の注意点＝膝や上肢の位置
- 車椅子への乗車方法

ルート安全管理の基本原則

- ルート類挿入時の移乗（リフト不使用時も含め）
- 一時的に取り外し可能なもの =各病院・施設でルールが必要
酸素は？ 人工呼吸器は？ 点滴？ 経管栄養のチューブ？
⇒ルートとスリングシートの絡みに配慮
- 一時的でも取り外しができないもの
バルーンカテーテル？ IVH？ Aライン？CVP？ドレーン
⇒移乗時の現在地点 A⇒目標地点 B（弧 AB）の中心点に設置

重度介助移乗時の注意点

- リフト導入の環境
 - 据置式＝リフトを導入できる広さの確保
 - 床走行式＝低床ベッドに対応できるか確認が必要
- リフトを導入できない環境での移乗方法
 - 車いすの設定
アームサポート跳ね上げ、取り外し
フット・レッグサポートスイングアウト
 - トランスファーボードの使用
トランスファーボードを使いやすい =R J 3 6 0 等
(フルリクライニング型)
リフトで座位（良肢位）が設定しやすい =N e t t i Ⅲ 等
(ティルトリクライニング型)
⇒環境によって車いすを選定する必要がある

『職場における腰痛予防対策指針』改訂

(厚生労働省労働基準局：平成 25 年 6 月 18 日)

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/youtsuushishin.html>

※改訂のポイント

介護作業の適用範囲・内容の充実

- 「重症心身障害児施設等における介護作業」から「福祉・医療等における介護・看護作業」全般に適用を拡大
- 腰部に著しく負担がかかる移乗介助等では、リフト等の福祉機器を積極的に使用することとし、原則として人力による人の抱上げは行わせないことを記述

リフト導入のメリット

① 労働災害の防止

『職場における腰痛予防対策指針』改訂による

② 医療事故の防止

.1 刑事上の責任

意識障害や四肢麻痺の患者など自分で身体を動かすことができない患者の転倒・転落は刑事上の責任を問われることがある。

.2 民事上の責任

損害賠償責任 ⇒ 予見可能であったか、回避義務があったか争点

③ 重度障害者の在宅自立生活促進

一人で重度者の移乗ができるため、介助支援による在宅での重度障害者の自立生活、老々介護・親娘介護家庭等での在宅生活継続のため、欠かせない道具となる。

リフト導入のデメリット

- 人力で行うより時間がかかる
- リフトの値段が高い
- 使い方を覚えることが面倒
- 患者さん、利用者さんがかわいそう
- かえって危ないのでは
- etc…

リフトを導入した経験では・・・

2-1 トイレ移乗

【対象者像】

施設利用中の機能低下傾向にあり排泄時の立位保持が困難になりつつある高齢者。脱着・後始末動作の自立が困難でリスクがある。

80 歳台 女性 円背姿勢

起居：一部介助

端坐位：手すり使用し見守り

立ち上がり：一部介助

立位保持：一部介助（徐々に体が曲がってくる）

移動：スタンダード車椅子 全介助

【目標】

排泄の自立・介助負担軽減を図りたい。

【実技内容】

起居動作を含むベッドからポータブルトイレへの移乗

講師デモ⇒実技（希望ペア）

声かえ、ポータブルトイレの位置、ベッド高、介助方法など

突っ張り棒は天井固定許可おらないので、現物のみ

【ポイント・留意点】

- ・どのような所を注意するか？どのように介助するか皆で考える

2-2 浴槽移乗

【対象者像 1】

退院予定の高齢者

入浴サービスや通所機械浴利用に否定的

自宅の風呂に入りたいニーズがある

歩行が困難で、立位でのまたぎ動作は不安定な方

【目標 1】

自宅での入浴が可能となれば環境設定・介助技術を家族に提案する。

【実技内容 1】

シャワーチェアを使用して浴槽へ入浴

(使用機種：くるくるチェア D・アクアムーブ)

1. シャワーチェアからの移乗動作 (介助あり・介助なし)
2. バスボード・浴槽ふち手すりの使用による移乗
3. シャワーチェア・浴槽台の使用
4. 環境設定上の注意 (手すりの設置・洗い場マット)

【ポイント・留意点】

- ・ シャワーチェアを使用する際は洗い場の入°-入が必要です。(最近是小入°-入で可の物が増えています)
- ・ 浴槽の高さによって移乗のし易さが変わります。
- ・ フットリストを上げてから移乗しましょう。
- ・ 全ての操作、動作は安全を確認しながら行いましょう。

【対象者像 2】

浴槽からの立ち上がり困難で引き揚げ介助必要な方、座位も不安定

【目標 2】

入浴用リフトを使用して浴槽へ（使用機種：ネプチューン）

自宅での入浴が可能となれば環境設定・介助技術を家族に提案する

【実技内容 2】

1. 浴槽ふちをいざり動作でリフトまで移動する
2. バスリフトで昇降操作を行う
3. シャワーキャリーに戻る

その他（入浴用ベルト・入浴台・回転ボードなどを紹介）

- 施設の改善例（ヤザキの改修例）
- 機械浴の話など（酒井医療の経験 環境設定型 ADL の話など）

【ポイント・留意点】

○ 留意点

- 操作時は必ず声かけを行う
- 挟みこみなどが起きないように注意する
- ヒートショック（浴室と脱衣室の温度差による（年間 約 17000 人）
- 入浴中に血圧上昇・低下など身体状況の変化